名古屋城新天守「エレベーター設置せず」

大阪では「大阪都構想」「カジノ万博」が話題になるが、名古屋はここ数年、名古屋城が争点になってきた。いまも「尾張名古屋は城でもつ」なのか。

名古屋のフェイスブック仲間から、名古屋城をめぐる情報が届く。新天守にエレベーターを設置しないという怒りの声に、怒りのコメントを送った。新聞記事が気になるが、大阪では名古屋城の記事は見つからない。大阪市立中央図書館に数日遅れで配架される中日新聞をチェックした。写真は 8 日朝刊「天守閣への入場最終日、観光客でにぎわう名古屋城＝6 日」。名古屋城の木造天守復元に伴い、現在の天守は 7 日から入場禁止に。市の計画では、19 年 9 月から現在の天守を解体し、20 年 6 月に 5 層 5 階建ての木造天守の復元に着工する。総事業費は最大 505 億円。市は入場禁止後、国特別史跡の天守台石垣の安定性を確認するため、天守入り口近くにある石垣の裏側などの調査に取り掛かる予定だった。そのためにはまず有識者会議を開き、文化庁に申請して許可を得る必要があるが、市内部の取りまとめが終わらないため、有識者会議も開催できていない状況だ。

その日の夕刊 1 面に「新天守エレベーターなし　名古屋城 忠実復元方針」と大きな見出し。翌 9 日朝刊 1 面では「エレベーターなしに賛否」などと報じる。連休明けを待ちかまえていたかのような急展開に、名古屋の人も驚いたようだ。市は 3 案を検討してきたが、外部設置案は景観を損なう恐れがあり、内部設置案も電動車いすが利用できないことから、「設置しない案」が妥当と結論づけたという。4 人乗りエレベーターの内部設置案というのは、柱や梁を傷めない、幅 80 ㌢、奥行き 100 ㌢と小さいものだ。市はエレベーターを設置しない代わりに、ロボットなど新技術開発の提案を国内外から募る考えというが、内部設置案について詳細な検討はなされたのだろうか。3 案というが、「出来レース」のように感じてしまう。関連記事K「全国の天守 割れる対応」に注目。2 年前の熊本地震で被災した熊本城。西南戦争で焼け落ち、1960 年に鉄筋コンクリートで再建されたが、最上階の 6 階まで階段しかなかった。だが、熊本市は復旧に合わせ、6 階に達する高齢者や障害者専用のエレベーターを新設する方針を決めた。担当者は「今の時代に公共施設のバリアフリー化は必要」と話す。

まだ情報不足だが、現段階でのコメントを書いておく。そもそも「木造天守」になぜこだわるのか。「史実に忠実な復元」という名のもとに、最初から障害者や高齢者らの利用を排除、制限してよいのか。熊本市のように「今の時代」に合った施設利用を考えるべきでは。障害者差別解消法が施行され、率先して合理的配慮を実施すべき名古屋市にとって、このエレベーター問題は重要な問題を提起している。またレポートしたい。

（2018 年 5 月 13 日）